

ILO と仕事の未来

——ILO 創設 100 周年に向けて

長谷川真一氏

4月24日のアフター5には25名が参加し、当クラブの代表代理で日本ILO協議会専務理事でもある長谷川真一氏から「ILO と仕事の未来」について話を聞いた。

2019年はILO創設100周年に当たる。それに向けてILOでは、7つのイニシアティブを定め、その第一に「仕事の未来」を取り上げている。今後広範な議論を経て、2019年の総会において「100周年宣言」として採択する予定である。

ILOのガイ・ライダー事務局長は、変化を引き起こす要因として、グローバル化、気候変動、技術の進歩、不平等の拡大の4つを上げ、「仕事の未来」を決めるのは我々が決める政策であると主張している。



ロボット技術の進歩、人工知能(AI)の急速な発展は、雇用機会の縮小と技能の陳腐化をもたらすという意見もある。職種意識の強い欧米では、自分の仕事がロボットに取られてしまうという不安が強い。日本企業においても、これまでのようにコア労働者の長期雇用を維持できるのか、技能形成の費用は企業が負担するのかそれとも個人が負担するのかについてコンセンサスが必要になるだろう。

ひとつの職種で人生が終わらない人が多くなることを見込まれる中で「キャリア」が大切になるが、職業生活が10年から15年に達した時点で、個人のキャリアを自己管理する時代が来るかもしれない。
(奥田久美)